

国債先物 (中心限月)

2010.9.2

<日足から想定される今後1週間程度の相場>

日足は回帰値(緑色の実線)超から下値圏(水色の帯)に入る大陰線となっています。当面は下値目処を探る展開が想定されますが、既に下値圏に入っていることから、これまでの相場基調に変化がないのであれば、直ぐに反騰に転じることが予想されます。もしそうならないようなら、日足は新しい下降局面に入る可能性が出てきます。

<週足から想定される今後1カ月程度の相場>

週足は上影が高値圏(桃色の帯)に迫り、下影が下値圏を割り込む、極端に長い同事足(始値と終値がほぼ同値の足形)となっています。当面は一段下落して実体が入る場面があると想定されますが、下値目処を探る展開が想定されますが、下影が極端に長いので、このまま反騰に転じる可能性もあります。先行する日足の動向が注目されます。

<月足から想定される今後3カ月程度の相場>

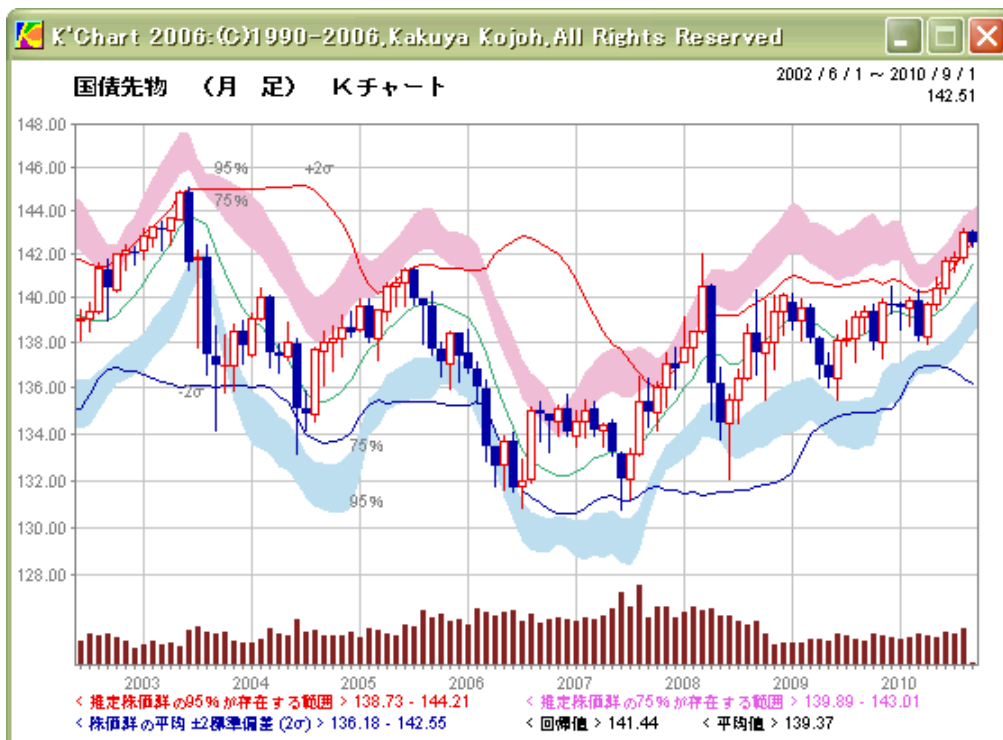
月足は高値圏の下端近傍で陰線となっています。今月末に高値圏の中に留まって終わるようなら、当面は高値目処を探る展開が想定されますが、高値圏を明確に下される陰線となって終わるようなら、今後回帰値へ向かって下落する展開となる展開を想定することになります。

足下の国内景気に力強さはなく、金利が上昇する局面にはありませんが、政治的な思惑で相場が荒れているようです。民主党の代表が誰になるかによって、マニフェストを修正して財政再建を重視するのか、財政再建よりもマニフェスト実現を重視してばらまき政策を続けるのかが変わり、前者ならば債券買い、後者ならば債券売りという見方が広がってきているようです。14日の投開票まで予断を許さない展開となりそうです。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。